

明 細 書

化粧品容器

関連出願の相互参照

本出願は、２００２年９月２６日に出願された日本特許出願２００２－２８０３４０号、２００３年１月２２日に出願された日本特許出願２００３－１３７４３号に基づく優先権を主張し、その内容を本明細書中に援用する。

技術分野

本発明は、加飾部分が容器本体や蓋体から部分的にでも剥がれたり、また脱落したりすることがないという要請に応えることができ、かつまた購買者が好みに応じて外観を選ぶことができる自由度を高めることが可能な化粧品容器に関する。

背景技術

一般に化粧品容器は、化粧料を収納する容器本体と、この容器本体を開いたり閉じたりする蓋体とを備えて構成されている。そして化粧品容器の外観をなすこれら容器本体や蓋体に対しては、そのデザイン性を高めるために、従来からさまざまな方法によって加飾が施されている。例えば、スパッタリングなどによって表面処理を行ったり、転写シートを用いて文字や模様などを転写したり、あるいは模様などを付した上に透明・半透明の層を重ねたりするなどして、容器本体や蓋体に装飾を施すようにしていた。

なお、本願出願人は、関連する先行出願として、特願２００１－４９０００号、特願２００２－２８０３４０号、特願２００２－３０４６８２号、特願２００２－３０４６８３号、特願２００２－３２１８７３号、特願２００２－３２１８７４号を出願している。

ところで、従来の化粧品容器にあっては、製品としての化粧品容器を高級感溢れる